

津大豆ニュース

～平成 28 年産作柄報告版～



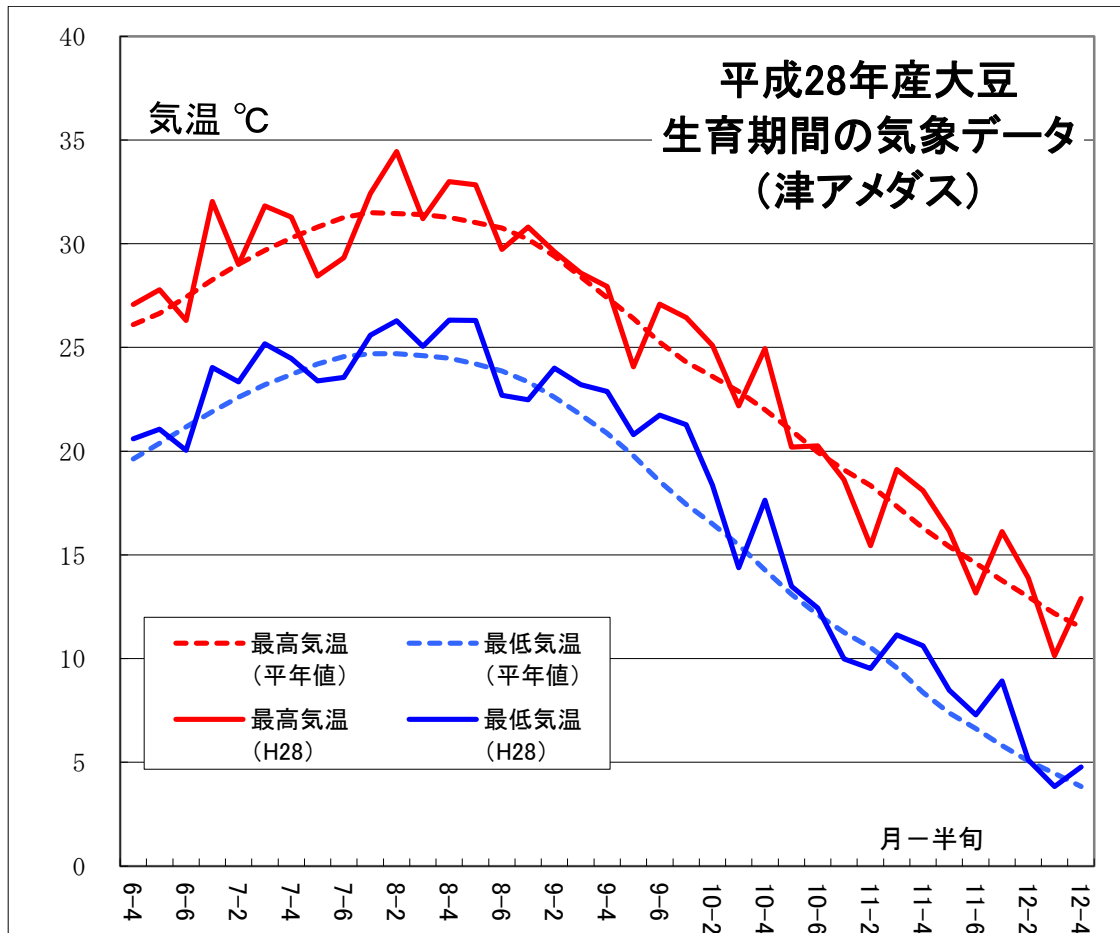
平成 29 年 1 月 16 日

津地域農業改良普及センター TEL : 059-223-5103

気象経過

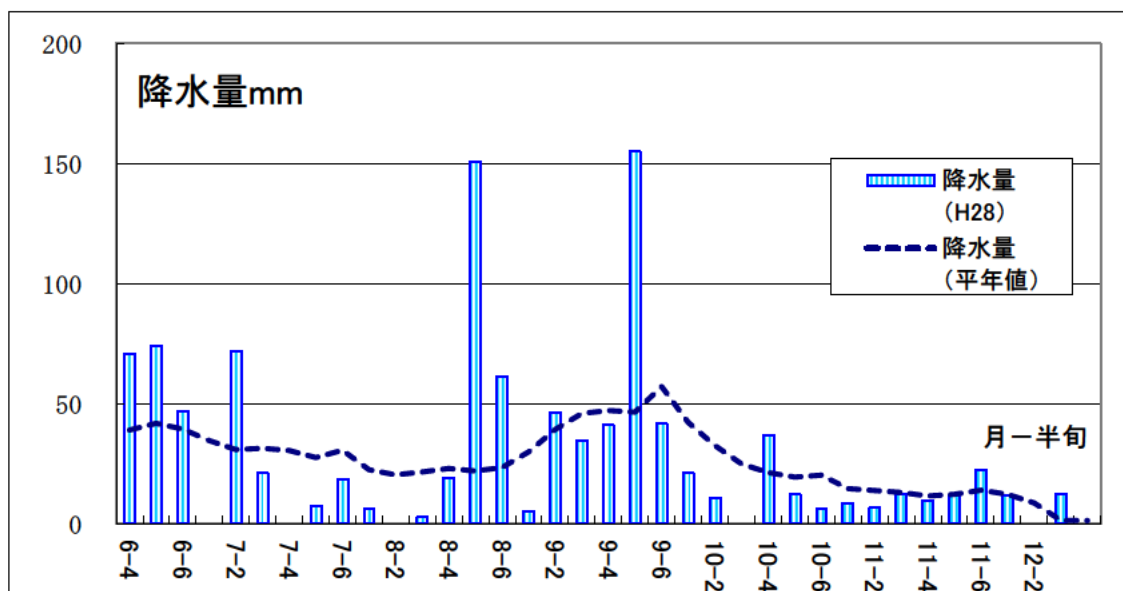
気温

9月中旬から10月中旬にかけて一時的に高温傾向となったものの、期間を通してほぼ平年並みの気温で推移しました。また、最低気温が高い傾向が続きました。



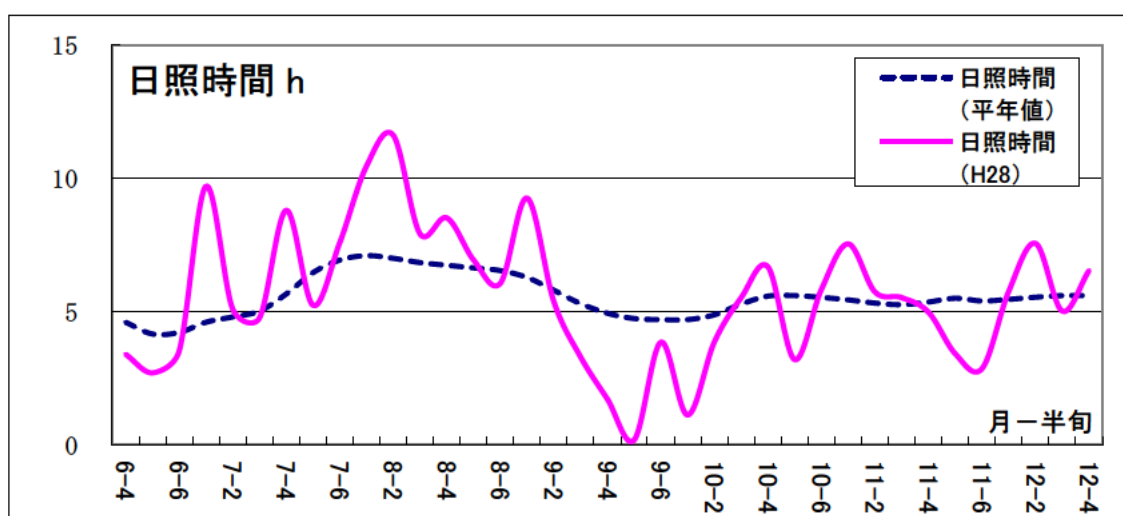
降水量

前半は少雨と多雨を繰り返す傾向があり、6月下旬から7月上旬はやや多く、7月中旬から8月中旬にかけて少雨となりました。特に、8月下旬から9月下旬にかけては平年を大きく上回り、降水量は平年比約180%となりました。10月以降は平年並みとなりました。



日照時間

7月から8月中旬までは晴天の日が多かったことから平年を上回りました。8月下旬以降は、雨の日が多かった影響で、平年を下回りました（8月下旬から9月下旬：平年比約80%）。10月以降は平年並みとなりました。



生育経過

<概要>

播種前に雨が多かった影響で、播種作業の遅れが心配されましたが、7月に入ってから雨は少なく、苗立ち・初期生育ともに良好でした。

しかし、8月下旬以降、降水量が多く、水はけの悪いほ場を中心に湿害がみられました。また、9月21日には台風16号が襲来し、倒伏被害がみられたほ場もありましたが、収量への影響は比較的小さかったものと思われます。

11月から12月にかけては、定期的な降雨の影響で、ほ場が乾かず、収穫作業に影響をきたす場合もありましたが、概ね12月中には管内の収穫作業は完了しました。

○生育基準ほの生育調査結果

【平成28年9月27日現在】

品種	調査地点	栽培様式	播種日	草丈 (cm)	分枝数 (本)	主茎葉数 (L)	SPAD
フクユタカ	一志町	中耕培土	7月4日	98	4	11	47.8
	芸濃町	狭畦	7月30日	82	1	9	50.8

○生育基準ほの成熟期調査結果

品種	調査地点	栽培様式	播種日	主茎長 (cm)	分枝数 (本/個体)	主茎節数 (/個体)	総莢数 (/個体)	不稔莢数 (/個体)
フクユタカ	一志町	中耕培土	7月4日	71	4	16	77	6
	芸濃町	狭畦	7月30日	56	4	13	48	5

開花期…一志町：8月15日、芸濃町：9月5日

成熟期…一志町：11月9日、芸濃町：11月25日

<雑草>

帰化アサガオ類、ホオズキ類、ホソアオゲイトウ等が蔓延しているほ場が散見されました。

<病害虫>

一部でハスモンヨトウの発生がみられました。また、稲刈り後には、カメムシ類がダイズに移り、特に、ミナミアオカメムシの発生が目立ちました。一方、防除が行われているほ場では、カメムシの発生は抑えられている傾向にありました。

<収量>

直近年と比較して、収量は多くなりましたが、粒は小さい傾向がありました。等級低下の要因としては、粒の大きさに加えて、吸汁性カメムシ類による被害粒および雑草による汚粒が目立ちました。

○生育基準ほの収量調査結果

品種	調査地点	栽培様式	播種日	子実重 (kg/10a)	百粒重
フクユタカ	一志町	中耕培土	7月4日	247	30.3
	芸濃町	狭畦	7月30日	199	30.3

※子実重および百粒重は水分15.0%に換算した値

次作以降の対策

作業

早めの準備を心がけて、適期作業に努めましょう。

雑草管理

帰化アサガオ類、ホオズキ類、ホソアオゲイトウ等の強害雑草の発生が増加しています。これらの強害雑草は、収穫作業に影響を及ぼすとともに、汚粒や異物混入の発生の原因となり、品質が低下します。適期の除草剤散布や中耕により、雑草の発生・生育を抑えましょう。また、生育ステージ後半まで残ってしまった雑草については、手で抜き取ることによって、収穫作業・次作以降の対策につながります。

病虫害対策

ミナミアオカメムシ等の吸汁性カメムシ類の発生が増加しています。吸汁性カメムシ類は大豆の子実を吸汁し、奇形粒の発生や不稔等の原因となります。被害は、適期に薬剤散布による防除を行うことで抑えられます（9月中旬と10月上旬の2回防除を行うと効果的です）。